



ふねあいのひろば

第 6 号

発行
岡山市国際交流協議会
岡山市役所秘書課内
〒700 岡山市大供1-1-1
TEL. 0862-25-4211



インターナショナル・ウィーク「世界あれこれ・ふれあいランド」交流の様子

緊張と協調

～私たちができること～

岡山市国際交流協議会

会長 梶谷 忠二

会員の皆様には、平素から本協議会の活動に対しまして、格別の御理解と御支援をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

昨今の世界情勢を振り返りますと、東西の緊張緩和が進む一方で、中東やアフリカ等で地域紛争が絶えることなく勃発しております。こうした時にこそ、異なった文化・体制の市民どうしが堅い友情で結び合える姉妹・友好都市交流の意義の大きさを感じざるを得ません。

本年はアジアの隣人である中国洛陽市と友好都市縁組を締結して10周年という大きな節目の年にあたり、今後一層の交流の拡大が期待されているところであります。本協議会では、両市民の相互理解と友好親善を深めるため、岡山市や日中友好団体等と一体となって、様々な記念行事を実施して参りたいと考えております。具体的

な交流事業の内容につきましては、別途、お知らせしたいと存じますが、会員の皆様の積極的な御参加と御協力を心からお願い申し上げます。

さて、現在、本協議会では387名の会員、74家庭のホームステイ・ホームビジット引受家庭、95名のボランティア通訳・翻訳者（平成3年3月現在）の皆様の御参加を得て、岡山市の姉妹・友好都市をはじめとする海外との交流活動を進めておりますが、今後、より広範な事業の推進を図って参りたいと考えております。そのためにも会員やボランティア諸制度登録者の拡充を図り、国際交流の輪を拡げて参りたいと考えておりますので、皆様一人ひとりが交流推進のリーダーとして、また、スポークスマン（広報・PR担当）として御活躍くださいますようお願い申し上げます。

コモ エスタ ウステ Como está usted?

(ごきげんいかがですか)

中米コスタリカからの親善大使 サンホセ市技術研修生が来岡

本協議会と岡山市では、姉妹都市サンホセ市との友好親善と技術協力を促進するため、造園・公園管理に関する技術研修生2人を受け入れました。平成2年10月から6か月に及ぶ研修期間中、フェルナンド・ピカド・トレホスさんとホセ・ラウル・アコスタ・ソロルサノさんの2人は、市役所建設局をはじめ、大学・研究所・企業等で専門研修を受けるとともに、ホームステイや学校訪問等を通じて、市民との交流を深めました。

ここで、2人の半年間の研修と交流の足跡を振り返って見ましょう。

〈技術研修〉



◁職場研修で肩ならし
市役所公園緑地部では
植物図鑑や写真をもと
に、日本式の造園・公
園管理技術の基礎知識
を学習。

▷野外で講習 半田山
植物園には約3,200種、
15万本の樹木・草花が
植えられ、写真で記録
しながら熱心に観察。



◁いらっしゃい/あいヨ 市
役所南側の大供公園の植木市
にも参加。苗木の搬入から配
列、植木市当日の運営、あと
片付けまで積極的に手伝った。

▷育て/球根たち 10
月には春の開花を楽し
みに、西川緑道公園の
花壇にチューリップの
球根を植付けけた。



◁トラ刈りに気をつけ
て 広大な芝地を持つ
県総合グラウンドでは
芝刈機を使って実地訓
練。「芝」の管理技術は
フェルナンドさんの主
要研修項目のひとつ。

▷丹念に植樹 市東部
の西大寺一宮苗圃では、
強い陽射しの中、様々
な樹木の苗木の植え方
や施肥について研修。



◁黄金色に波打つ水田
に感動 邑久町に拡が
る広大な水田では、たわ
わに実った稲穂を手
に取り感触を確かめた。

▷バイオ技術に取り組
む 企業研究室では、
バイオ技術を駆使した
発芽・育苗・品種改良
等の技術を習得。サン
ホセでの技術開発に生
かせそう。



素晴らしいまち岡山

フェルナンド・ピカド・トレホス
(サンホセ市技術研修生)



岡山は時代を通じて、市民や訪れる人が人間らしく生活できるに十分な社会制度や雰囲気を作られている優れた街である。

- * 地方文化と伝統がいきづいている街
- * 優れた通信網と交通路を備え、岡山市内外に即座に移動することができる街
- * 時代に合った技術の組織化により、地方工業の成長が盛んな街
- * ビジネス・商売・観光等に十分適した街
- * スポーツ・教育に活気づき、市民に優れた公共サービスを提供する街
- * 私のような海外からの人々がそれぞれの専門分野で日本の発展ぶりを観察することができるように門戸を開いている友好的な街
- * 温暖な気候、緑の山々や川が、一層美しい風土を生み出している街

美しさを引き立たせることができる場所を選んで、公園や庭が造られ、これらは精神的な奥深い意味において日本人の真なる想像力の創造が伺える。

また、文化・宗教等、この国独自の特徴を見ることができる。

〈お礼〉

私は岡山市での研修を可能にしてくれた方々そして、私たちの岡山滞在が楽しく快適なものとなるように助けてくださった皆さんに心から感謝いたします。

特に、公園緑地の仕事の仲間たちには、公園研究について御指導いただき、彼らの意見や専門的知識のお蔭で多くのことを学ぶことができました。

姉妹都市“岡山”の皆さん、本当に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



◁剪定(せんてい)に挑戦 公園や街路樹の管理に不可欠な剪定を体験。コスタリカでは樹木を刈り込むことが少ないため、最初は戸惑いの表情も。

フェルナンドとともに

野島 泰来
(市公園緑地管理課)



公園や庭の植物管理、特に樹木の剪定や施肥等の技術や芝生の管理、公園内のゴミ処理等について学びたいと来岡したフェルナンド氏と勉強することになりました。日本語はダメとのこと、私もスペイン語はダメ。さて、これから先どうなることかとはじめ思案したが、そこは人間同士、馴れてくれば身振り手振りと言葉を片手に単語を並べ絵を書いて見せたりして通じた通じたと言ひしたが、職場の同僚からは「あんた勝手に通じたと思ったらおえんで、相手には理解されていないかもわからんが」といわれシヨツクを受けたりもしました。しかし、さすがに首都サンホセの市役所から選ばれた研修生、研修中の態度は真面目で性格も温厚でやさしく勉強家であり、色々なことを学ばれたことと思います。

6ヶ月間という短い研修期間であったが、彼の岡山で学んだ内容がサンホセ市民のしあわせのために大きく花開くよう期待すると共に、両市が緑化を推進するために「緑を創り守り育て広める」という研修中の約束をお互いに実行できるよう努力しようではありませんか、両市の発展のために。

▷この農薬の効能は？
造園関係企業の苗圃にも出掛け、発芽したばかりの幼芽や苗木の細やかな育成技術と農薬使用法を研究。



〈日本文化体験〉



◁箸も上手になりました 大好物の“テンプラ”は箸さばきも軽やかにペロリ。宿舎では交替で御飯を炊いて自炊も。焼飯が得意料理だった。



◁一本ノ即席剣士の誕生 サッカーをはじめスポーツ万能のフェルナンドさんの剣道着姿も凛々しく、日本男児顔負けの勇姿に思わずシャッター。

▷結構なお茶目エでした 緑化推進大会会場で振る舞われた抹茶に挑戦。見様見真似で上手に飲み干した。茶道の心を感じることができたかどうか？

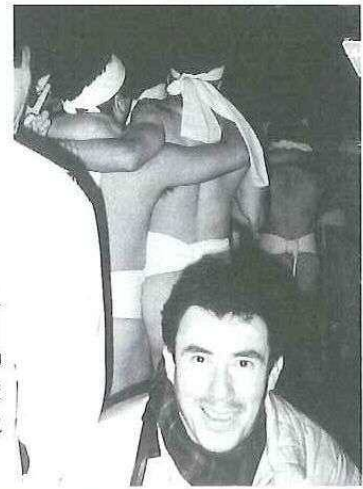


▷書道にもチャレンジ 日常会話はこなせるようになって、今度は“かきかた”を練習。ペンを筆に持ち換えてみたが「なかなか難しいナア」との感想も。



◁心を込めて「土ひねり」 備前市にある窯元を訪ね、土ひねりを体験。フェルナンドさんは灰皿(小鉢?)、ラウルさんは一輪差し(徳利?)に挑んだ。

▷西大寺会陽を見学 2月には西大寺会陽に参加。亜熱帯育ちの2人には厳しい寒さの中、宝木の投下から奉納までを大群の裸に押されながら見学。



6 か月を振り返って

ホセ・ラウル・アコスタ・ソロルサノ
(サンホセ市技術研修生)



既に世界的に評判の高い日本の公園や庭園ですが、それらをすべて理解するには、6か月という期間はあまりにも短いのですが、それでも、私たちが学んだものは内容の濃いものでした。特に、市役所公園緑地部の皆さんの専門的知識から新しいことを学ぶことができました。

後楽園・西川緑道公園・浦安公園等の公園や、その他の日本庭園は大変素晴らしく、それぞれが造られるうえで、無駄のない意義深いものです。同じことが、街路樹にも言え、国産のものと外国のものとがうまく利用されています。

私たちにとっては、食事や文化も人々もとても目新しく、初めは慣れるのに苦労しましたが、とても快適で自分の生活の一部になってしまい、思い出すたびに愛着心が湧いてくるようです。

最後に、コスタリカ日本人学校の山田先生(前校長)とかつ子先生、安宅市長さん、松本前市長さん、岡山市国際交流協議会会長の梶谷さん、サンホセ交流協会の皆

さん、私たちが訪れた企業や団体、日本家庭体験のためにホームステイさせていただいた家族の方々、そして、岡山の街にもお礼を言いたいと思います。

ラウルの想い出

小野原 啓 次
(市公園緑地建設課)



岡山市と姉妹都市縁組を結んでいる中米のコスタリカ共和国の首都サンホセの市職員ホセ・ラウル・アコスタ・ソロルサノさん(28歳)が昨年10月から今年3月末日まで半年間、造園研修に来られました。選ばれて来られただけに大変まじめで、熱心に研修に励まれました。最初は日本語もたどたどしく、こちらでもスペイン語がわからず、双方辞書とにらめっこでした。今年になってからは日本語の勉強の甲斐あって日常会話ができるようになりました。研修は公園や日本庭園の見学と写真集や図面を見ることから始まり、樹木の育て方や公園デザインの仕方、さらに樹木の植栽や工事現場の仕事など、民間造園でも研修し、後半は盆栽の作り方も勉強されました。なにはともあれ「岡山に来てよかった」と思って帰って載ればと大奮闘した6か月間でした。

〈市民とのふれあい〉



〈協議会会員と親交
本協議会ではサンホセ
市技術研修生の来岡を
歓迎するとともに、会
員との親睦を深めるた
め、歓迎会を開催。70
人を超える参加者で会
場は友好ムード一色に。

▷楽しいホリデイ 多
くの市民の善意で市内
外を案内していただく。
研修視察を兼ねて、東
京・京都・広島・熊本
等も訪問。写真は高松
稲荷参詣の様子。



〈お団子はいかが？
お正月を前に餅つき経
験も。自分でついた餅
を丸めて団子づくり。
こぼれる笑顔の中にふ
れあいの輪が広がった。

▷飲んで歌って楽し
んで ホームステイ先で
は夜遅くまで語り合い
楽しい一時を過ごした。
研修の疲れを癒して、
明日からも頑張るゾ！



〈寒梅に乾杯 梅が見
頃となった神崎梅園
(西大寺)では、初春
の陽差しと琴の調べの
中、観梅会が開かれた。
日本情緒豊かな催しに
感激。

▷小学校を親善訪問
市立旭竜小学校を訪問。
児童の「好きな食べ物
は？」「サンホセのジャ
ンケンは何？」等の質問
に答えた後、ゲームや
プレゼント交換をして
楽しんだ。



〈コスタリカ・コーヒーはいかが？〉



〈現在、岡山市役所・
地下売店では、岡山サ
ンホセ交流協会の御協
力により、姉妹都市サ
ンホセのPRを兼ねて
コスタリカ・コーヒー
を発売中（一缶700
円）。



IGUAL

正 富 博 行 (団体職員)

サンホセ市からの技術研修生フェルナンドさんとラウルさんと知り合ってから、5カ月余りが経過したが、彼らは真摯な態度で研修生活をつづけていた。彼らと接していて実に様々なことを教えられたが、そのひとつをここに記してみたい。それはフェルナンドさんが我が家にはじめてホームステイした時のことである。二日間ではあったが、彼と互いの家族のこと仕事のことなど、いわゆる日常生活について様々な語りあった。その時、この「IGUAL (おなじ)」という言葉がよく使用されたのである。すなわち、異なる文化や社会を越えて人間の生活レベルでは多少の差こそあれ、みな「IGUAL」なのだ。

不十分な会話ながらも、身にしみてそう感じる事が出来たが、そのことを教えてくれたフェルナンドさんに今、心から感謝している。また、もう一人の研修生ラウルさんも利発で活発な青年であるが、帰国後の彼らの活躍と家族の幸福を心から祈りたい。



市役所にて (中央が筆者)

〈開会式典〉

爽やかな秋晴れのもと、片山義久実行委員長の開会宣言、テープカットの後、岡山市民合唱団「鷺羽」の合唱と岡山市消防音楽隊の演奏で華々しく幕開け。(11/3, 石山公園)



合唱団「鷺羽」と消防音楽隊



待ちに待ったオープニング

〈世界あれこれ・ふれあいランド〉

開会式典に引き続き、留学生らによる各国のお国自慢料理や特産品の展示即売が始まり、多くの家族連れや外国人グループ等で賑わった。22店のブースはどどこも明るい笑顔であふれた。

(11/3, 石山公園)



カントリーソングなら「おまかせ」



ウチの名物料理だ！おいしいヨ



楽しさあふれる会場



独楽(こま)で国際交流

〈何でも喋ろう「あれこれパーティー」〉

外国人と市民が何でも自由に語り合おうと開催。ゲーム、抽選会、中国民族音楽団の演奏等、飲むほどに食べるほどに最初の緊張もとけて、和気あいあい楽しい一時を過ごした(11/3, 三光荘)

“ふるさと創生”

『インターナショナル・

インターナショナル・ウィーク事業実行委員会と岡山市では市民の皆さんが身近な国際交流を経験できるよう昨年11月3日から11日までの日程で『インターナショナル・ウィーク'90』を開催しました。この事業は市民が外国人との気軽なふれあいの中で自らを再発見し、岡山市民そして日本人としての長所や短所を知り、外国人との相互理解と友好親善を深めようと企画されたもので、国際感覚を身に付け、新しい岡山文化の創造をも目指しました。

事業実施にあたっては、市民の皆さんから事業アイデアを公募し、93件に及ぶユニークでバラエティーに富ん



片山委員長のあいさつ



ふれあいの輪が広がって



こちらは文学談義？



中国の伝統音楽にウットリ

〈国際交流シンポジウム〉

服部祥子大阪教育大学助教授をコーディネイターに、パネラーのレオナ・エグランド氏(米国)、石黒マリローズ氏(レバノン)、ムハマッド・ライース氏(パキスタン)が「『家族の未来』を考える」をテーマに懇談。会場は熱気にあふれ、丹念にメモをとる市民も。

(11/6, 市民文化ホール)



活気あふれるパネラー席



壇上から語りかける

『ウィーク'90』を開催

だ企画が寄せられました。

これらのアイディアは実行委員会で検討され、「世界あれこれ・ふれあいランド」「あれこれパーティー」「世界の国々・写真展」等、7つの事業に集約されました。

同実行委員会には本協議会理事、会員、ボランティア通訳・翻訳者、ホームステイ・ホームビジット引受家庭の皆さんも委員として参画し、イベントの企画・立案から準備・実施、そして、あと片付けまで、ボランティアで協力しました。

それでは、ここで『インターナショナル・ウィーク'90』のイベントの数々を振り返ってみましょう。



体験談や持論を披露



会場いっぱいの参加者

〈外国人と行く「バスツアー」〉

秋の一日を市民と外国人がともに過ごし、バス内でのゲームや語り、吉備路散策、工場視察等を通じて、市民は外国人とのふれあいを楽しみ、外国人も日本の文化や産業に対する理解を深めた。岡山中央ライオンズクラブ・岡山国際交流プラザとの共催。67人参加。

(11/10, 吉備路)



宮崎ライオンズ会長が挨拶



元気で行ってきま〜す!



岡山木村屋パン工場を視察



湯豆腐ランチはいかが
(宝福寺)

〈ホームステイ体験〉

外国人留学生等を対象に市民宅へ1泊2日のホームステイを実施。市役所で市民と外国人が顔合わせ後、27家庭のホストファミリー宅へ向かい、日本家庭の生活習慣、食文化を体験。(11/10・11, 市内一円)



鹿子木市助役(実行副委員長)が挨拶



外国人と市民が“お見合い”

〈世界の国々・写真展〉

市民が外国で撮影した「ふれあい」「風景」写真や、外国人が日本で見かけた「珍しい風景」や「異文化体験」の写真を公募。45か国で撮影された282点の写真を掲示。会場の表母「市民ギャラリー」は多くの市民が見学に訪れた。市民投票で選ばれた優秀作品は後日、表彰。岡山中央郵便局では世界の国々パネル(切手・ポスト)展を併催。(11/2~7, 表彰式15日)



ここ知ってるヨ!



この写真が気に入ったわ
(市民投票)



堂々の優秀作品表彰式
(市役所)



珍しい切手やポスト(写真)が好評

〈お礼〉

昨年は『インターナショナル・ウィーク'90』に御参加をいただき、厚くお礼申し上げます。

今年度も『洛陽韶楽』公演(11/3, 岡山シンフォニーホール)等、バラエティに富んだ事業を実施したいと思いますので、会員の皆様の積極的な御支援と御参加をお願いいたします。

『21世紀への挑戦』

アポロ9号 宇宙飛行士 ラッセル・L・シュワイカート

～第4回国際交流講演会を開催～

昨年9月29日午後、本協議会と岡山中央ライオンズクラブとの共催で「第4回国際交流講演会」を三木記念ホールで開催しました。

NHK岡山放送局の協力でNHK特集「地球大紀行～太陽系第3惑星・46億年目の危機～」をビデオ上映した後、ラッセル・シュワイカート氏を講師に『21世紀への挑戦』と題する講演が行われました。

シュワイカート氏は、1969年、アポロ9号に乗り組み、241時間・地球151周の飛行と46分間の宇宙遊泳を体験した宇宙飛行士で、講演会には同氏の貴重な体験談を聞こうと、会員をはじめ大人から子供まで約700人の市民が集い、大盛況でした。

〈講演の要旨〉

アポロ9号で飛行中、宇宙遊泳を体験し、母なる地球を眺めた時、人類の代表としてこの経験を伝える義務を感じた。

我々は理想的な未来像として、今以上に平等で安全な世界や高度な生活環境を望んでいる。この望ましい未来

にとって、技術の発達プラスに働く一方、環境の悪化、人口の増加、天然資源の枯渇やこれらに伴う深刻な社会問題の発生等、マイナスにも作用する。

これからは、資源を効率的に活用するための技術開発を進め、地球への負担を軽減するとともに、マイナス要素を単に懸念するだけでなく、世界規模での行動に転化し、物質的かつ意識的に宇宙に向かって開かれた生活が大切になってくるだろう。



▶講演中のシュワイカート氏

▼熱心に聞き入る参加者



★ ★ ★ 講演会に参加して ★ ★ ★



21世紀への課題

会員・ボランティア通訳・翻訳登録者
ホームステイ登録家庭

宮崎 久子
(主婦)

地球をとりまく諸々の問題—環境悪化、資源の枯渇、政治経済戦争等—何年も前からとりざたされているながら対策は遅々として進まず、未来に対して私は暗い予感を持っていた。しかし、シュワイカート氏の講演は私に人間にとっての明るい光を見出させてくれた。ハイテクによる生産物小型化、公害減、省エネ。通信技術の進歩による個人の情報量増加、これは個人個人の力を大きくする等。人間の英知が現実と意識をより広い宇宙へ解放すると氏は講演された。しかし、イラクはクウェートに侵攻し、米国は力で解決しようとしている。数知れない人が戦争で死ぬのを承知の上で、氏の言う人間の英知はどこへ行ったのだろう。パルト三国へのソ連の介入。地球から戦争がなくなるのはいつになるのだろう。(平成3年2月)



人類のふる里地球

市川 善浩
(岡山シンコー一俵)
代表取締役社長)

全ての任務から解放された5分間、果てなしの宇宙空間に浮いたまま、私は茫然と地球に見とれていた。地球は人類にとって母なるふる里であり、青く美しく本当に素晴らしい星である。そこには国境の線は印されてはいなかった、と語りかけてくださったのは、初めて命綱なしで宇宙遊泳をしながら仕事をされた「ラッセル・シュワイカート」さんだった。つまり、社会はボーダレスへと移行し、世代間・国間の壁がとり払われつつあり、世界規模の文化の中に住むようになる。外側の宇宙から地球を見た体験者の立場から地球への感謝と多くの考え方と問題を提起された。平等の社会、安全な世界、高度な生活水準、より健康的で楽しい住環境、調和と刺激、天然資源の枯渇を防ぐ日本の技術の重要性を説かれ、大変勉強になった。